

<年の始め>年越しから新年のメリハリは年々少なくなってきましたね。とはいえ年改まれば良い年であって欲しいもの、“めでたい”ことやものに目がいきます。江戸時代から初夢にみて縁起の良いのは“一富士、二タカ、三ナスビ”。幸い夢でなく富士の姿をキャンパスからは大きく望めます。クリスマスの頃には裾野近くまで白銀



<年の瀬の富士(SHC から: 2015 Dec 24)>

の姿でしたが年明けには“綿帽子”を被った富士に戻って



しまいました。上写真(SHC 近隣にて: 2016 Jan04)は冬枯れの林のかなたに見える“春霞にけむる?”富士と箱根の外輪山です。こんな景色は暖冬のせいなのでしょうね。

<秋冬春の同居>このところ春の暖かさと霜降る寒さを行き来する日々で秋から春までの景色が同居しています。まずは“正統な”冬の作品、“フヨウ”の実です。綿毛で包まれていた種の多くは風に乗って遠くに運ばれたよう



<フヨウの実>



<早やボケの花>

です。続いては“ボケ”の朱色の花です。「いよいよ春」という花の一つですが SHC を一歩踏み出した座禅川の土手に咲いています。ちなみにボケは“呆け”ではなく“木瓜”、果実の形に由来する名のように



<コマツヨイグサとミツバチ>



<クロガネモチの実>

夏から秋の作品も見られます。日当たりの良い斜面に咲く“コマツヨイグサ”の黄色い花で、暖かさに誘われて巣から出てきたのでしょうかミツバチがご馳走を頂戴している様子でした。



<縁起もの>秋から冬の作品は“クロガネモチ”の赤い実です。葉柄や若枝が黒紫色をしているためクロガネ(黒金:鉄)モチ、そしてクロ・カネモチから“金持ち”となり縁起の良い木とされています。草地では花こそないもののシロツメクサが元気です。写真は 5 つ葉です。幸せが来るとされる 4 つ葉は 3 つ葉の 1/10000 程度とのこと、5 つ葉はもっと出現確率が低いでしょうから一層縁起が良いのでしょうか。

(文と写真: 松本正勝)